

えくてびあん

1 立川と語ろう 立川で生きよう
JANUARY 2013
EKUTEBIAN Vol.21 No.222



表紙の人 / 志村順子(富士見町) 撮影 / 細江英公

砂川深層

11

案内人・豊泉喜一
写真・五来孝平



本来、正一位稲荷は伏見稲荷のことを云うが、初午には五色紙や赤白の布・紙の織がたくさん立つ。御前での焚き火を囲んで酒を酌み交わし、和やかな談笑の輪が広がる。

暗闇の中を勢いよく燃え上がる篝火に参詣者は一年の無病息災を祈り、冷えた身体を温める。一年間、その役割を果たした達磨が、ここでお焚き上げされる。

(写真：阿豆佐味天神社提供)



「江戸に多きもの、伊勢屋、稲荷に犬の糞」という戯れ唄があるほど、稲荷様は屋敷神として数多く祀られていた。その稲荷様のお祭りが「初午^{はつうま}」である。本来は立春後、最初の午の日の初午であるが、最近では建国記念日の二月十一日に行う家が多い。この日、近所や親戚が集まってお供えした赤飯や油揚げを戴き、焚き火で焼いた目刺し等を肴に酒を酌み交わす。砂川のお盆は七月十四日の迎え火から始まる。夕刻、各家々が麦わらで作った大きな松明で迎え火をするため、五日市街道は火の帯の様になり壮観であった。畑作地帯の砂川では麦が盛んに生産され、その麦わらで拵えた松明で迎え火を焚く風習は砂川周辺独特の行事であった。長く続いた砂川の伝統行事も、今では保存会などの尽力により僅かに当時の面影を留めている。

年中行事は、一年四季折々の移ろいの中で長い間その風俗習慣が日本固有の行事として綿々と受け継がれ、人々の暮らしに潤いを与えてきた。しかしながら、生活の近代化が進み、春夏秋冬の季節感が薄れるとともに、年中行事は徐々にその姿を消しつつある。砂川にも昔から数多くの年中行事があった。その中から今も行われている行事をいくつか紹介してみよう。毎年、元旦午前零時、阿豆佐味天神社の庭にうず高く積まれた薪の山に火が点けられる。炎は天に向かって勢いよく燃え上がり、初詣に訪れた人たちはこの火にあたり一年の家内安全無事息災を祈る。ここで燃やされる薪はかつて、子どもたちが村中から集めてきたもので、これを「根っこもらい」と云った。寒風に「根っこをくんない、お神酒代くんない」と叫びながら村中を廻って歩く子どもたちの声は師走の風物詩であった。



バリバリと麦稈がはじけ、燃えさかる松明が大きな光の輪を作り先祖を迎える。(於：西砂小学校グラウンド)

消えて行く年中行事



俳句に似た川柳は下手なんですよ。

川柳人協会会長 竹本 瓢太郎さん

前編

啓介 よく世間では、短歌と俳句は日本古来の歌とか云ってますが、川柳がその中に入らないというのはどうしてなんですか、歴史ですかねえ。

竹本 そうですね、短歌は古来のものですけど、俳句と川柳っていうのはどちらかというと異母兄弟ですね。俳句はお姉さん、川柳はちゃん坊主といったところ。俳句はわりと枠の中で約束事を守ってやる。川柳は五七五という約束は



■竹本瓢太郎(たけもとひょうたろう)昭和8年生まれ。近代川柳の六大家のひとり、田村周魚の許でその才を見出され、持ち前の感性を如何なく発揮。ついにはその後を継ぎ、門下生100名を率いる「川柳きやり吟社」第5代主宰となる。60歳のとき、川柳の世界で最も権威のある「川柳文化賞」を受賞。その後、川柳人協会会長に就任。川柳の結社が集まって結成される「社団法人日本川柳協会」の理事の他、国立・NHK学園のオープンスクールにて川柳講師、毎日新聞川柳の選考等の要職を務める。川柳専門の道歩んでいるのは東京でも二人しかいない。今や川柳界ではその名を知らぬ者はいないほどの存在。
■立井啓介(たていけいすけ)本誌編集人。

啓介 それはあるかもしれないですね。昨今の出来事を、さっと云う。
竹本 だから川柳には面白いのがありますよ。「モデルを憎む娘の理想像」。両親がもう少し綺麗ならば、私はもっと綺麗に産まれたらただけでもと。それをモデルのせいにしてはいる。でも川柳っていうのは、決してふざけたものじゃないんです。例えば、「家中が絡み合っている洗濯機」。

啓介 いいですねえ、うまいなあ。
竹本 そういう穿ちの効いたものがある。人生を歌った歌では、「憎しみが消える貧しい葬式だ」。これは、手厳しいです。あの先輩は嫌だったけど、いざ葬式に行ったらあまりに貧しいんで「なんだ、そんな人間だったのか」という。啓介でも、深いですよ。そこまで、詠めるとは。

竹本 詠めます。ですから、昔の川柳とはだいぶ形が変わってきましてね。
啓介 川柳の語源はそもそも、柄井川柳でしょ、柄井川柳という俳人が広めた。
竹本 俳人ではありませんけど、むしろあの方は浅草の名主だったんです。それで俳句をやっておられたんですが、ほとんど自分は作らなかつたようです。

啓介 作らなかつたんですか。
竹本 今という選考者ですね。ところが、かなりの人格者であり素養もあって、その方の選が素晴らしいということ。応募者が多かつたんです。前句付の興行と云いましてね。例えば「斬りたくもあり斬りたくもなし」という下の句の題を出して、この前句を募集したんです。これに対して「盗人を捕らえてみれば我子なり 斬りたくもあり斬りたくもなし」と、一つの短歌ができる。

啓介 なるほど。興行ってことは宝ようきんなことをいうと、「これは川柳じゃないか」というような云い方をしますが、これはなんだか川柳を馬鹿にしているんじゃないかと、僕は思うんです。

竹本 そうじゃないんですよ。よく川柳みたいな俳句を作ると云われてますけど、それはそれでいいんじゃないですか。我々の世界でも、俳句の先生と親しく付き合っていますけど、云えることは川柳に似た俳句は、俳句としたら一番下手な俳句ですよ。俳句に似た川柳は、川柳として一番下手な川柳ですから。
啓介 なるほど。相競い合っているわけですね。
竹本 それは、互いに競い合っているんじゃないんですよ。ただ単に俳句に似た川柳だということですね。これが川柳だよ、俳句だよと分けても、この間にどうして重なる部分がありますよ。これは俳人が作ったから俳句だ、これは川柳人が作ったから川柳なんだと。それでいいんじゃないかと。

に入ろうと決めた人ですよ。竹本 川柳なんてものは熊さん、八さんの遊びじゃないかと云う人もいますが、投票用紙を買ったって安くはないですからね。そういう人ではできませんよね。その後、世の中の政治が厳しくなりましてね、「役人の子はにぎにぎをます覚え」なんてのが出てきたんです。そしたら「そんな句は割愛しなくてはならない」という御上のお触れすら出た。そうやってくると江戸、吉原とかの遊びに、だんだん文芸的な要素が低くなりましてね、それが川柳から狂句という風に替わってきたんです。それを明治36年頃、井上剣花坊や阪井久良伎が現れて、柄井川柳の時代の川柳に帰ろうじゃないかということとでスタートしたんです。

啓介 なるほど。興行ってことは宝ようきんなことをいうと、「これは川柳じゃないか」というような云い方をしますが、これはなんだか川柳を馬鹿にしているんじゃないかと、僕は思うんです。

啓介 よく俳句の世界では、ちょっとひ

啓介 よく俳句の世界では、ちょっとひ

啓介 よく俳句の世界では、ちょっとひ

啓介 よく俳句の世界では、ちょっとひ

啓介 よく俳句の世界では、ちょっとひ

啓介 よく俳句の世界では、ちょっとひ

啓介 よく俳句の世界では、ちょっとひ

啓介 よく俳句の世界では、ちょっとひ

高松町	スーパー やなぎや	高松町2-5-17 522-4322
	ケーキ&カフェ マリアン	高松町2-10-22 524-3912
	米穀・食料品 横町屋	高松町2-11-23 522-2609
	山梨中央銀行 立川支店	高松町2-16-13 526-1571
	レストラン 榎	高松町2-22-2 526-2276
	OBANZAI-YA 茄子菜	高松町3-14-2 521-2918
	書籍・雑誌 フレンド書房	高松町3-18-2 527-1555
	活魚割烹 きよみず	高松町3-19-2 526-3885
	HAIR MAKES たしる	高松町3-26-16 525-2175
	ふとんの 青木寝商	若葉町1-8-1 536-6833
	Beauty Salon リラ	若葉町1-11-1 536-3048
	みふじサイクル	若葉町1-12-4 536-7166
	生鮮館 和光 立川店	若葉町1-13-2 538-3121
	浅見内科医院	若葉町1-11-20 537-0918
	いなげや 立川若葉町店	若葉町3-21-1 537-4119
	鮎処 舍利とねた	若葉町3-43-2 537-4120
	パティスリー プルミエール	西砂町1-36-11 531-4835
	自己実現広場 ぎやらりー 繭	西砂町5-6-2 531-2392
	いなげや 立川一番町店	一番町6-2-3 531-4925
	fresh shop スーパーはしもと	上砂町3-2-1 536-2331

えてびあんの輪
人があて、街があります。
あなたがあて、立川があります。
そこにちょっとだけ、えてびあん!
リストのお店にはいつでも、えてびあん!

高松町	多摩中央信用金庫 栄町支店	栄町2-59-8 536-9711
	いなげや 立川栄町店	栄町3-7-1 523-7201
	手打ちそば 信更	栄町5-12-1 537-0991
	相模屋 酒店	栄町5-61-8 536-2476
	メンズカット ヤザワ	栄町5-61-31 536-8738
	森田接骨院	栄町6-6-25 535-6240
	いなげや 立川幸店	幸町1-23-6 537-1820
	中華レストラン SANFUJI	幸町2-3-5 536-3813
	超こってりらーめん パワー軒	幸町2-35-3 535-1665
	お菓子処 花奴万葉庵 すずかけ通り店	幸町3-17-3 536-8785
	とんかつ・割烹 かつ亭	幸町4-59-3 535-4611
	和洋菓子 たちばな	幸町5-2-16 537-0347
	BSタイヤショップ 佐藤商会	幸町5-10-2 537-0912
	古楽の小屋 ロバハウス	幸町6-22-32 536-7266
	御菓子司 やな瀬	錦町1-3-12 522-3969
	手づくり味噌の材料専門店 北島こうじ店	錦町1-4-28 524-3190
	new gyoza 1059 餃子天国	錦町1-5-6 526-2283
	ステーキレストラン リブレ	錦町1-8-3 527-1630
	和菓子処 ゆうき	錦町1-8-5 525-0780
	ザ・クレストホテル立川	錦町1-12-1 521-1111

立川にこの人あり 吉例『ベスト立川人・展』

今年も「ベスト立川人・展」を開催いたします。
えくてびあん撰、この一年、華やいだ人たちの写真をここに挙紹介。
街の装いも変化してもそこに息づく人は変わらない。
この人がいる街。われらが立川は今日も元気です。

西澤 美弘 (柴崎町)

立川に「立川紙業」あり。立川の名士、五十嵐栄治氏が創業してより、三多摩を中心に幅広く紙の流通業を営んでいる。西澤さんは、その現社長。社長然としていない気さくな人柄が魅力。紙についての造詣は広く深い。



第18回『ベスト立川人・展』

- 平成 15年2月4日(火)～9日(日)
午前10時～午後7時
- 立川市女性総合センター・アイム1Fギャラリー

同時開催
写真家・細江英公『えくてびあん表紙の人・展』

下島 伸一 (若葉町)

国内外の大会を走り続けるジャーナラー(走り旅)愛好者。2002年夏、積年の夢であった世界最長、アメリカ大陸を横断するマラソンレース「ラン・アクロス・アメリカ」に参加し、見事4位完走を果たした。



小西 修 (錦町)

美容業界で高名なトニー・タナカ氏のもとで特殊メイクを学び、やがて独立。アトリエ・シュウを率いる気鋭の特殊メイキャップ・アーティスト。その卓越した技能はテレビCM、映画などの世界で広く知られるところ。

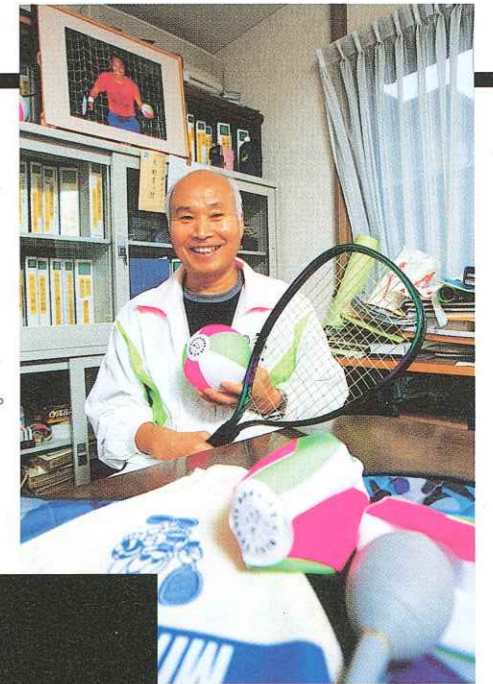


田村 聡 (錦町)

聴覚障害というハンデを持ちながら、果敢にも世界一過酷と云われる『パリ・ダカールラリー』に参加。今回、惜しくも完走は果たせなかったが、その行動力は健常者も真似できないほど。次回、完走の夢に向け、着々と準備を進めている。

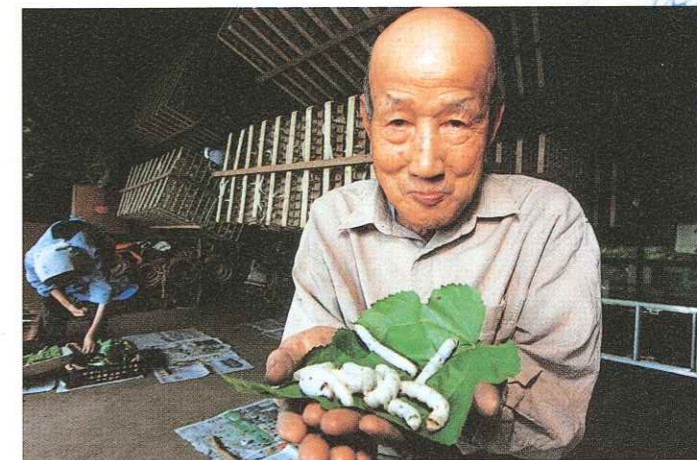
天野 孝一 (錦町)

いまや全国の競技人口3万人。生涯スポーツとして人気を集める球技「ミニテニス」の考案者にして、世界でただひとりのプロミニテニスプレーヤー。その普及と後進の指導のため、今日も忙しく全国を飛び回っている。



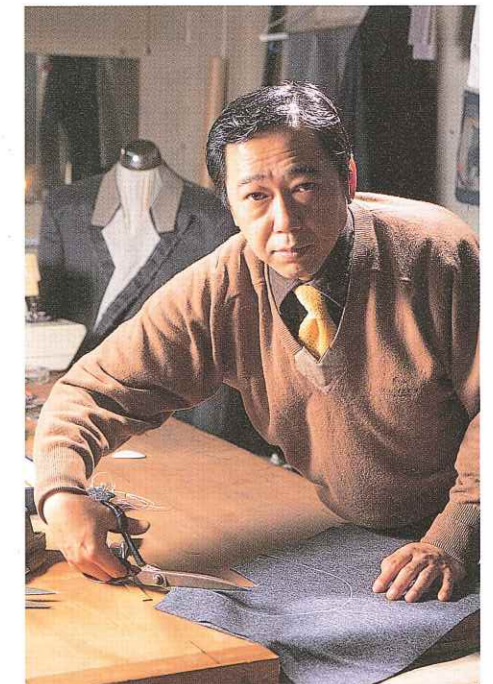
荒井 賢次 (上砂町)

その昔、砂川では養蚕が盛んに行われていた。当時の砂川農家の生活は、まさに蚕中心に営まれていたと云っても過言ではないだろう。最近、めっきり観られなくなった桑畑を保有し、養蚕の伝統をいまに伝える立川最後の養蚕家。



安武 紳一郎 (羽衣町)

注文紳士服専門店「テーラー安武」店主。熟練技能者たちがその技能の日本一を競い合う大会「技能グランプリ」にて優勝(厚生労働大臣賞受賞)。労働省検定特急技能士の資格を持つなど、まさに日本屈指の技能者。



お正月といえば門松に和服といういでたちを想像されるが志村さん、洋装でカメラの前に。それでいながら淑々とした空気を醸しだしているのは、ひと柄の成せる業か。

立川市教育委員会委員長。
早稲田大学文学部出身の志村さんは、もうひとつ「作家」という顔をもっている。

『ひらがな大王』で朝日小学生新聞にて特選を獲得。以来、同新聞に連載、読切りなど作品を発表してきた。『光さす明日』でサンベルディ賞、『父の月』で北日本文学賞など。

(於・志村邸/撮影・細江英公)

東風

歳があれば、吉例の『ベスト立川人・展』の準備におられる編集部だが、今年はフェアレの中にある立川市女性総合センター・アイム1階へと会場を移しての開催。詳しくは本号の「えくてびあんの眼」をご覧ください◆「砂川深層」は、そこに住んでいないと、なかなか知り得ない、しかもレッキーとした「立川市」の地域誌。先は長いと思っていたが、来月号が最終回となってしまった。豊泉喜一さんの博識ぶりもさることながら、それを読む「砂川人」のまなざしにも熱いものがあることに最近気づいた。この調子で立川に点在する町を語っていただければ面白い作品になるのではないだろうか。町名からみても「錦町」とか「羽衣町」にはなにか由来がありそうだ◆ながたに せんさんから五日市街道にまつわるエッセイが編集部へ届いた。総じて「街道」には物語がつかないものだが、この稿は、ながたにさんの個人経験から生まれたものだ。不思議とエッセイというものは一般論では面白みに欠けるようである。深謝 ◆1月号の発行も遅れ、2月の声を聞いてしまいました。陳謝申し上げます。編集人をはじめ、編集部員の体調は相変わらず万全とはいえませんが早く月日に追いつかねば◆立春も 過ぎて眩しき えくてびあ

【第三次えくてびあん同人】
編集 大久保清志/小林康史/杉山清純/
芳賀敏博/山田五郎
デザイン 池田隆男/AMNET DF
写真 小林洋治/五来孝平/宮保大輔

えくてびあん 1月号
第21巻 通巻222号
平成15年1月1日発行
発行 えくてびあん編集部
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL. 042-528-0082 FAX. 042-528-0065
編集人 立井啓介
発行人 瀬尾勤三
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

Topics トピックス

小正月の民俗行事を今に伝える。 保育園児たちのワイワイ繭玉づくり体験

その昔、立川の砂川地区では養蚕が盛んに行われていた。「形の良い繭が沢山できますように」。繭玉飾りは養蚕農家その年の繭の豊作を願い行っていた小正月の民俗行事で、米の粉で作った団子を繭の形に似せて作り、榎や櫻、樺などの木の枝に刺して飾ったもの。木の中にも榎は、冬でも葉を落とさず見映えが良い上、堅い繭が採れるようにとの願いが込められている。繭玉飾りの前には、養蚕の神である蚕影山の掛け軸をかけ、赤飯などの膳を作って供えていた。小正月が過ぎると、飾られていた繭玉団子は枝から取り除かれ、小豆粥に入れられたり、団子裏の灰に埋めて焼き、醤油などをつけて食べられていたようだ。

それほど盛んだった養蚕ではあるが、やがて安価な生糸が海外から輸入されるようになって



くるにつれ、段々とその姿を消し、現在、立川で養蚕を行っている農家はただ一軒を数えるのみ。いまや繭玉飾りの伝統も忘れ去られようとしている。

1月11日(土)、この伝統的な民俗行事を後世に伝えるべく、立川市歴史民俗資料館(富士見町)にて「繭玉づくり体験教室」が開かれ、近隣の保育園児童ら34名がこれに参加した。民俗の会の人から繭玉飾りに込められた意味の説明を受け、いよいよ体験学習がスタート。はじめての体験に子供たちは興味津々の面持ちに。小さな可愛い手で大小さまざまな形の団子を捏ね上げていった。形は多少いびつではあったが、出来上がった紅白の団子を枝に飾ると立派な繭玉飾りが完成。参加者全員で昔の人も食べたであろう繭玉団子入りのおしるこに舌鼓を打った。繭玉飾りの内ひとつは石臼の心棒の穴に立て、古民家園(幸町)の座敷に飾られた。昔の農家の生活が薫ってくるよう。



中国料理 五十番

●錦町1-4-5 高橋ビル ●522-7472
●営業時間11:00~21:00 ●盆正月休み
●1F 38席、2F 70席、3F 50席、4F 24席
(カラオケ完備) ●Pあり(2台)

郷土愛が生んだ
立川名物「うどんラーメン」



(写真)うどんラーメン 750円
明日葉ラーメン 750円
女性のための飲茶定食 850円



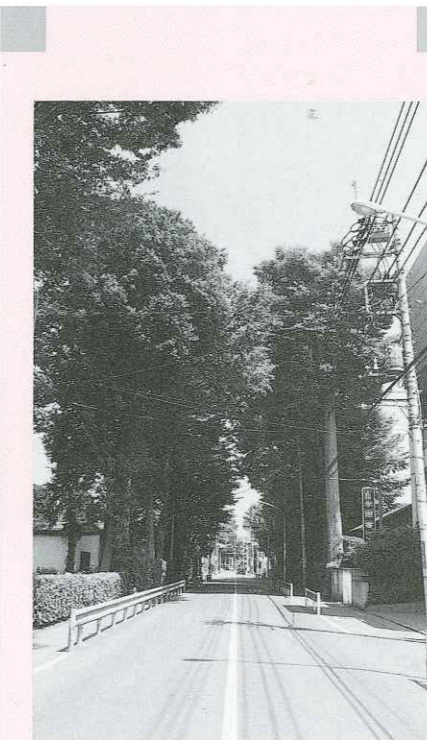
立川がうどんの生産高日本一ということは広く知られるところだが、その特産品のうどんを用いて地域性をアピールできないだろうかと考えた人たちがいた。「立川には名物と呼べるものがない」「故郷を感じさせるものがない」という声を聞き、立川のお土産になるような物を考案しようという動きが自然発生的に生まれたのだ。「地元の名産をつくり、多くの人にこの街を知ってもらいたい」。熱度ある人たちが研究を重ね、うどんを使ったいつもの商品が誕生した。五十番の『うどんラーメン』もその一つである。95年に開発されてより口コミで評判が広がり、96年には横浜で行われた「ジャパンフードショー」に招待を受けるなど話題を呼んだ。その売れ行きの良さから、今ではこの店の看板メニューにまで成長している。

先代の後を引き継いだのが、店長の高橋昌裕さん。高橋さんは何事をも吸収せんとする柔軟性の持ち主。店内に大型スクリーンを設置し、食事をしながらサッカー観戦等が楽しめる空間を演出するなど、訪れてくれたお客さまにくつろぎと新鮮な驚きを提供、うどんラーメンに続く新しい風を呼び興している。

街かどエッセイ ①

五日市街道

三十五年前、高校卒業とともに大志をいだいて九州より上京して、まず荷物を広げたのが立川市の砂川、今の一番町であった。
おぼの住まいにとりあえず身を寄せたのであったが、立川駅北口からバスに乗り、立川通から芋窪街道を経由したのでなかったかと思う。今のフェアレの所には米軍基地のフィンカムゲートがあり、高松商店街には英語の看板がかかっていた。
五日市街道は今のよう交通量は多くなく、大きな榎の並木に圧倒されながらも、まだ素朴なたたずまいを見せていた玉川上水の岸辺をよく歩いた。住まいからすぐの所が天王橋で、交差点から上水に沿って少し入ると、そこはまったく静かな好ましい場所だった。春先、この土手に木瓜の花が咲いていた。九州では見かけなかったはじめての出会いだった。地べたにしがみつこうような小さな幹にピンクの花が愛らしかった。この時から私の好きな花のリストに加えられた。



かかっていた。ある日、風邪がみで近くの北町診療所という病院に行った。待合室の長椅子に居ると、隣の席に新田次郎が来て座った。注射をしたのだろうか、茶色の革のジャンパーを右肩だけにかけて、腕まくりした左肩を右手で抑

えていた。私は緊張しながらも、黙って彼の左肩にジャンパーをかけた。「ありがとう」と小さな声が聞こえた。重たいジャンパーだった。新田次郎の訃報を聞いたのは、この数日後のことだった。
縁あって再び立川に住むようになり、五日市街道はいっそう身近なものになった。買い物道の道であり、下って奥多摩の山にも行く。最近、地元五日市街道沿いの方々と触れ合う機会があった。交わされるお話の中から、人々にとってこの街道があらゆる面での絆になっていることを強く感じた。かつて木炭や石灰を都へと運んだ道。それほど遠くない昔にも、朝暗いうちからまだ舗装されていない砂利道の街道を、自宅とれた野菜をリヤカーいっぱい積んで、八王子や新宿まで売りに出ていたと聞いた。街道は、歴史を刻むと共に、未来にむけて新しい文化と力を生み出して行く道なのだろう。

(ながたにせん)

おことわり◆連載中の「独断毒語」は、今回休載させていただきます。

立川と多摩地域が
もっと楽しいホームページ

多摩てばこ
ネット

http://www.tamatebako-net.jp/

多摩てばこネット編集部
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武藤ビル2F
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609
e-mail message@tamatebako-net.jp

常楽我浄

真如苑提供番組組くじょうらくがじょう

スカパーフェイクTV 216ch、マイ・テレビ 84ch

土 曜 午後9時~9時15分
午後7時15分~7時30分
再放送/火曜 午前9時~9時15分
午後7時45分~8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十七年

真如苑

柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)

立川産の 朝採り野菜を 食卓へ

5月~9月 12:00~18:00
10月~2月 12:00~17:00
休日 日曜・祭日

JA東京みどり 幸町直売所
〒190-0002 立川市幸町1-14-1
Tel 042-536-2439

デジタルえほん メモリーブックにどうぞ...



ミッキーやキティちゃんと一緒に...!!
あなたの写真と名前が絵本の中に入ります。



PLANNING・DESIGN・PROCESS・PRINTING
火度社
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13
FAX. 527-1949
E-mail dikosya@nifty.com

「まうひと その一」 (1997年)



さとうこの子の世界 ⑤

人形 気分

「京・舞妓人形展」に出展してみないかとのお誘いを頂き、早速に舞妓さんたちの踊りを観に行ってきました。艶姿な衣裳に身を包んだ舞妓さんがライトアップされた舞台の上でいくつもの踊りの型を披露してしましね。それが皆、見事奇麗に揃っているんですね。とっても新鮮な光景でした。そんな様子から発想したのが、この作品です。



「まうひと その二」 (1997年)